

原子力空母に関する市民アンケート（第3次）

1) 調査の目的

原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀に配備されて、2013年9月25日で5年が経過する。配備発表時の第1次（2007年3月）、配備直前の第2次（2008年6月）に実施した市民アンケートでは、配備に反対と答えた市民が、第1次で65%、第2次では70%だった。5年が経過して、この市民意識に変化はあるのか。また、2011年3月11日の東日本大地震による原発事故は、原子力空母を巡る市民意識にどのような変化を及ぼしたのか。それを知るために第3次の市民アンケートを実施した。

2) 調査期間

2013年8月23日～25日

3) 調査方法

インターネットリサーチ会社への委託調査

4) 調査対象

20代から70代の横須賀市民 1,000人

5) 調査主体

「原子力空母第3次市民アンケート」調査

呼びかけ：非核市民宣言運動・ヨコスカおよび横須賀市議有志（井坂、大村、根岸、山城、長谷川）

協賛団体：ピースフェスティバル2013実行委員会、三浦半島地区労センター、原子力空母配備の是非を問う住民投票を成功させる会、原子力空母の横須賀配備を考える市民の会、原子力空母三浦半島連絡会

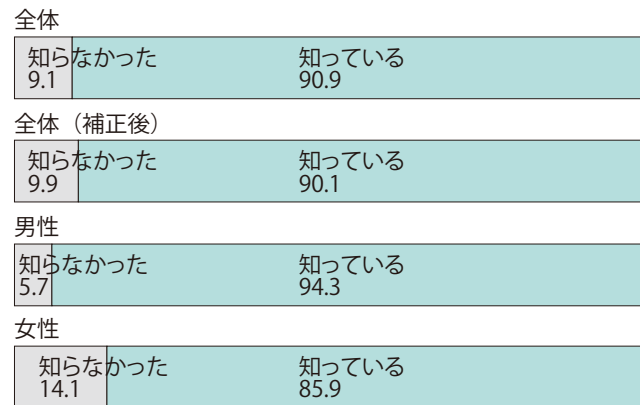
6) 集計にあたっての注

調査に応じた1,000人の内訳は男性：595人、女性：405人。年齢階層ごとの分布は別紙参照。なお、男女比5：5とした場合の補正データも参考に提示した。

7) 質問項目とコメントは別紙

別紙

Q1. 横須賀に原子力空母が配備されていることを知っていますか。



「配備を知っている」と答えた市民は90.9%。「知らないは」9.1%だった。年代が上がるにつれて、「知っている」は増えている。20代は34%が「知らない」と答えた。

2007年に実施した第1次の調査では、配備計画を知っているかの問いに、「知っている」と回答した市民は83%だった。2008年9月に配備が実施され、それから5年が経過し、認知度はさらに高まった。

Q2. 横須賀に原子力空母が配備されていることについて、不安はありますか。



「不安はない」「どちらかといえば不安はない」が41.9%。「不安はある」「どちらかといえば不安はある」が42.5%。「分からない」が15.6%だった。「不安がある」が「不安はない」をわずかに上回った。

男女間で回答に大きな違いが現れた。「不安はある」「どちらかといえば不安はある」と答えた男性は35.3%だったが、女性では53.1%と半数を超えた。とりわけ20代女性の67.9%、60代女性の70.7%、70代女性の66.7%が「不安はある」「どちらかといえば不安はある」と答えたことが注目される。

年代別では、「不安はある」「どちらかといえば不安はある」と答えたのが、20代では54%と半数を超えたが、30代、40代、50代は、ほぼ40%が「不安はない」「どちらかといえば不安はない」と答えた。

別紙

Q3. 福島原発事故後、原子力空母が横須賀に配備されていることに対する不安は大きくなりましたか。

全体		
不安は減った 1.5	変化はない 69.9	不安は増した 28.8
全体（補正後）		
不安は減った 1.4	変化はない 68.7	不安は増した 29.8
男性		
不安は減った 1.5	変化はない 74.5	不安は増した 24.1
女性		
不安は減った 1.5	変化はない 62.4	不安は増した 36.2

「不安は減った」「不安はやや減った」は1.5%。「不安は増した」「不安はやや増した」が28.8%。「変化はない」が69.9%だった。3割近くの市民が「不安は増した」「不安はやや増した」と答えたものの、7割の市民は原発事故を経験しても、原子力空母に関する意識の変化はなかったと答えた。

これを問2と問3のクロス集計 * で見ると、より輪郭がはっきりする。問2で「不安はない」「どちらかといえば不安はない」と回答した人の91.3%が、問3で「変化はない」と答えている。一方で、問2で「不安はある」「どちらかといえば不安はある」と答えた市民の41.6%が、問3で「変化はない」と答え、58.4%は「不安は増した」「不安はやや増した」と答えた。

つまり、不安を感じない層にとっては、相変わらず不安はない。不安を感じる層にとっては、不安が高まったことはあるにせよ相変わらず不安の種であることに変わりはない。意識が強化されることはあっても、空母に不安のなかった人が不安を抱え始めるという変化は起こらなかった。

ここをどう考えるか。おそらく、多くの市民が「原発と原子力空母は別物」という受け取り方をしているのではないか。「原発と原子力艦船の原子炉は兄弟」との訴えが、市民の中に、まだ十分には浸透していないということでもあるだろう。

* 問3は、問1で空母配備を「知らない」と答えた人は回答対象としていない。そのため、問3の回答対象者909人を母数にした場合のクロス集計であることに留意。

		Q2						
		1	2	3	4	5		
Q3	1	8	0	0	0	0	8	0.8%
	2	0	4	1	0	0	5	0.5%
	3	177	191	111	127	29	635	63.5%
	4	1	21	19	101	24	166	16.6%
	5	1	0	0	12	82	95	9.5%
無回答		22	28	25	12	4	91	9.1%
		209	244	156	252	139	1000	
		20.9%	24.4%	15.6%	25.2%	13.9%		

Q2.横須賀に原子力空母が配備されていることについて、不安はありますか。	
1	不安はない
2	どちらかといえば不安はない
3	分からない
4	どちらかといえば不安はある
5	不安はある
Q3.福島原発事故後、原子力空母が横須賀に配備されていることに対する不安は大きくなりましたか。	
1	不安は減った
2	不安はやや減った
3	変化はない
4	不安はやや増した
5	不安は増した

別紙

Q4. 原子力空母の安全性に関して、米海軍と日本政府の情報提供は十分だと思いますか。

全体		
十分 14.5	分からない 32.1	不十分 53.4
全体（補正後）		
十分 13.3	分からない 33.2	不十分 53.5
男性		
十分 19.6	分からない 27.2	不十分 53.1
女性		
十分 6.9	分からない 39.3	不十分 53.9

「十分」「どちらかといえば十分」は14.5%。「不十分」「どちらかといえば不十分」は53.4%。「分からない」が32.1%だった。「不十分」「どちらかといえば不十分」に関しては男女間に大きな差はないが、「十分」「どちらかといえば十分」に関しては、男性19.6%、女性6.9%と3倍近い差があった。

配備から5年がすぎ、この街に原子力空母が入港している風景が日常的になる中で、安全性に関する情報提供はこれまで以上に必要なものとなっていると考えるが、市民の多くも、米海軍、日本政府の情報公開に関して、厳しい評価を下していることが示されている。

Q5. 原子力空母の安全性に関して、横須賀市の安全対策の取り組みは十分だと思いますか。

全体		
十分 16.5	分からない 43.8	不十分 39.7
全体（補正後）		
十分 15.2	分からない 44.7	不十分 40.0
男性		
十分 21.8	分からない 39.8	不十分 38.3
女性		
十分 8.7	分からない 49.6	不十分 41.7

「十分」「どちらかといえば十分」は16.5%。「不十分」「どちらかといえば不十分」は40.0%。「分からない」が43.8%だった。

「十分」「どちらかといえば十分」に関しては、問4と同様の傾向があるが、問4に比べて、「分からない」が増えていることに注目したい。評価以前の問題として、横須賀市の安全対策の内容が十分に市民に伝えられていないという評価を市民は下している。それに加えて、「不十分」「どちらかといえば不十分」とする市民が39.7%に上った。

いずれにしても、「十分」とする市民は16.5%であることを、横須賀市は真摯に受け止めてほしい。

別紙

Q4. 原子力空母の安全性に関して、米海軍と日本政府の情報提供は十分だと思いますか。

全体		
十分 14.5	分からない 32.1	不十分 53.4
全体（補正後）		
十分 13.3	分からない 33.2	不十分 53.5
男性		
十分 19.6	分からない 27.2	不十分 53.1
女性		
十分 6.9	分からない 39.3	不十分 53.9

「十分」「どちらかといえば十分」は14.5%。「不十分」「どちらかといえば不十分」は53.4%。「分からない」が32.1%だった。「不十分」「どちらかといえば不十分」に関しては男女間に大きな差はないが、「十分」「どちらかといえば十分」に関しては、男性19.6%、女性6.9%と3倍近い差があった。

配備から5年がすぎ、この街に原子力空母が入港している風景が日常的になる中で、安全性に関する情報提供はこれまで以上に必要なものとなっていると考えるが、市民の多くも、米海軍、日本政府の情報公開に関して、厳しい評価を下していることが示されている。

Q5. 原子力空母の安全性に関して、横須賀市の安全対策の取り組みは十分だと思いますか。

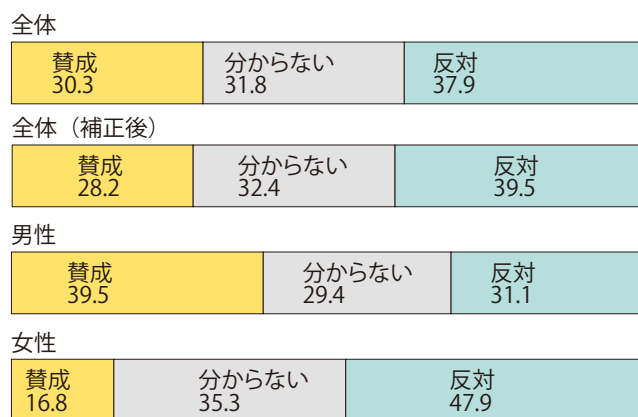
全体		
十分 16.5	分からない 43.8	不十分 39.7
全体（補正後）		
十分 15.2	分からない 44.7	不十分 40.0
男性		
十分 21.8	分からない 39.8	不十分 38.3
女性		
十分 8.7	分からない 49.6	不十分 41.7

「十分」「どちらかといえば十分」は16.5%。「不十分」「どちらかといえば不十分」は40.0%。「分からない」が43.8%だった。

「十分」「どちらかといえば十分」に関しては、問4と同様の傾向があるが、問4に比べて、「分からない」が増えていることに注目したい。評価以前の問題として、横須賀市の安全対策の内容が十分に市民に伝えられていないという評価を市民は下している。それに加えて、「不十分」「どちらかといえば不十分」とする市民が39.7%に上った。

いずれにしても、「十分」とする市民は16.5%であることを、横須賀市は真摯に受け止めてほしい。

Q6. 横須賀に原子力空母が配備されていることについて、どう思われますか。



「賛成」「どちらかといえば賛成」が30.3%。「反対」「どちらかといえば反対」が37.9%。「分からない」が31.8%だった。男女間で回答に大きな差があった。男性の「反対」「どちらかといえば反対」は31.1%。女性の「反対」「どちらかといえば反対」は47.6%だった。年代別では20代で、「賛成」「どちらかといえば賛成」が26%、「反対」「どちらかといえば反対」が48%と、反対側が賛成側を大きく上回った。

2008年に実施した第2次の市民アンケートと比較すると、賛成側は8ポイントほど増え、反対側は40ポイント減少している。これだけを見ると、配備5年の既成事実の重みは、市民の意識を大きく変えたといえる。しかし、むしろ2008年の「反対」70.7%は、今回「反対」37.9%と「分からない」31.8%に分かれたというべきだろう。賛成側が2008年22.7%、今回30.3%（男女比5：5の補正では28.2%）と、7.6ポイントの増加にとどまっていることから、そのように言えるのではないか。

配意5年の歳月は、市民の意識に変化をあたえていることは事実だが、それでも配備賛成が30%に留まり、市民の声の第1位が、配備反対であることを評価したい。「分からない」が3分の1近くということも、課題としたい。

ここで、横須賀市が2011年3月に実施したアンケート調査結果について、言及したい。東日本大震災直後に行なわれたこのアンケート調査は、「トモダチ作戦」と称する米軍の被災地支援活動の影響があって、初めて米軍基地容認が、反対を上回る結果となった。

今回のアンケート調査においても、こうした影響は無視できないと予測したが、結果は横須賀市が実施した2008年のアンケート調査の水準に戻っており、「トモダチ作戦」の影響は薄まったと思われる。

参考データ

